

# 令和2年度 学校関係者評価報告書

## 1. はじめに

学校法人大原学園 東京アニメーター学院専門学校 学校関係者評価委員会は、平成31年度自己点検・評価報告書に基づいて学校関係者評価を実施し、以下のとおり報告致します。

## 2. 学校関係者評価委員会開催日

令和2年6月24日

## 3. 開催場所

東京アニメーター学院専門学校 3階教室

## 4. 学校関係者評価委員

### ①学校関係者評価委員 5名

氏名	所 属
浅尾 義宣	株式会社ガイナ 代表取締役社長
植木 純一	株式会社 EARLY WING 取締役
大野 正拓	株式会社少年画報社 メディア事業部部長
中澤 一登	株式会社プロダクション・アイジー アニメ監督
村上 貴志	株式会社サイバーエージェント プロデューサー

### ②学校関係者評価事務局 3名

氏名	所 属
鈴木 智也	東京アニメーター学院専門学校 校長
清水 陽介	東京アニメーター学院専門学校 課長
伊藤 幸祐	東京アニメーター学院専門学校 教員

5. 学校関係者の評価・意見  
令和2年6月24日

【自己評価】0%（取り組めていない）～ 100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価

平成31年度 学校関係者評価報告書		中項目		自己 評価	総括	学校関係者の評価・提言
No.	項目	No.	項目			
1	教育理念・目的・育人人材像	1	理念・目的・育人人材像	80%	<p>教育理念は、学生に対して資格取得教育、実務教育を施し、人格の陶冶を行いもって有為な産業人を育成することである。</p> <p>校訓を「感奮興起」と定め、この意味するところの「感動は感謝を育み、奮闘は成功の一歩となる。興味は才能を開花させ起動で人は自立する。」が具体的な教育理念となっている。</p> <p>教員に対しては「一人ひとりに光を」を教育の目標に掲げ、学生一人ひとりの目標と個性を活かした将来を描けるよう指導にあたっている。</p> <p>この教育理念を実現するために、主に高校卒業生を入学対象としている専門課程と、大学生・社会人を入学対象とした社会人講座を二本柱にしながら、資格取得教育を中心に実務に対応できる人材の育成を行っている。</p> <p>これらの教育理念・目的・育人人材像は、書籍や小冊子として全教職員に配付され周知徹底されている。その理念・目的の下で、教職員が質の高い教育を実践し、目指す人材を育成している。</p> <p>理念や目的、また育成する人材像は入学案内パンフレット、大原学園ホームページを通じて公表している。</p>	適正に運営されている。
2	学校運営	2	運営方針	定めている	<p>学園全体の運営方針は理事会・評議員会で、また各校の運営方針は校長を中心とした運営会議で定められている。</p> <p>それらに基づいて部課長会議で詳細を決定し、その内容は週に一度の職員会議で告知するとともに各課で周知徹底している。</p> <p>教育現場への浸透度合いを確認し、より高めることが今後の課題である。</p>	適正に運営されている。
		3	事業計画	定めている	<p>学校の運営方針を反映した事業計画（目標達成プログラム）は毎年度作成されており、各部署では目標を達成すべく定期的に進捗と差異を確認して必要な手立てを講じている。</p> <p>教職員全体での共有化を更に推し進めることで、目標達成をより確実なものにしていく必要がある。</p>	適正に運営されている。
		4	運営組織	90%	<p>理事会・評議員会で決議された内容は、事業部長・校長の下で開催される運営会議で伝達・説明され、部長・課長などの各階層でも適切な意思決定が行われている。</p> <p>意思決定が効率的に行えるように、職務分掌と責任に関する規定と各部門・各部署の役割を明示した運営組織図がある。</p>	適正に運営されている。
		5	人事・給与制度	80%	<p>要員計画、採用計画、教職員研修計画を通じて、人材の着実な確保と育成が行われている。</p> <p>人事・給与に関する規定も整備されていて、人事部および人事委員会を中心に適切に運用されている。</p>	適正に運営されている。
		6	意思決定システム	90%	<p>理事会、評議員会、学園本部、学校と階層ごとに意思決定システムが確立されており、意思決定者による決定内容はイントラネットやグループウェアなどを用いて速やかに伝達されている。</p>	適正に運営されている。
		7	情報システム	70%	<p>学校運営における管理システムの多くはすでに導入されており、現場の業務を正確に迅速に行うことに大いに役立っている。</p> <p>ニーズの変化にもいち早く対応できる体制も整っている。</p>	適正に運営されている。

【自己評価】0%（取り組めていない） ～ 100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価

平成31年度 学校関係者評価報告書		中項目		自己 評価	総括	学校関係者の評価・提言
No.	項目	No.	項目			
3	教育活動	8	目標の設定	設定している	<p>毎年、教育課程を編成するにあたり、卒業生の内定先企業を中心にアンケートを実施し、教育課程に反映させることで、時代のニーズに合った教育を提供している。</p> <p>各学科の教育目標、育成人材像は、分かりやすい言葉で、できるだけ具体的に示している。</p>	<p>各業界の現場で求められる「技術」と「知識」をよりの確にスピード感をもって習得できる環境と教材を用意すべきである。（全系統）</p> <p>単に就職させるということではなく、プロとして通用するスキルや人間性を育成する本当の意味でのプロを目指す教育を実践している。（声優系）</p>
		9	教育方法・評価等	70%	<p>教育課程は、体系的にステップアップできるものになっている。定期的な見直しにあたっては、卒業生、近隣住民、関連企業等と協力した検討会によっている。</p> <p>学生に対して定期的に授業アンケートを実施し、講義方法の改善をおこなっている。</p>	<p>会話の授業を取り入れたらどうか。聞く力を向上させるのが成長の近道だし、教える方も気持ち良く教えられる。複合的な気遣いが出来ないし通用しない世界でもある。（アニメ系）</p> <p>1・2年生生合同で公開持ち込み授業を行い、たくさんの作品に触れる機会を増やし、絵を描くための知識を増やす。（漫画系）</p>
		10	成績評価・単位認定等	70%	<p>成績評価は客観的な方法で常に明確に行っている。</p> <p>毎年卒業生の入社後状況調査を実施することで、教育カリキュラムの見直しに役立っている。</p> <p>年度末公演、年度末作品展については、各企業に協力いただき、現在の業界のニーズに応じた実践的内容で実施することができる。</p> <p>シラバス等による成績評価基準の公開準備を進めていく。</p>	出席状況や課題の提出状況だけで判断せず、作業成果によって評価している。（全系統）
		11	資格・免許の取得の指導体制	70%	資格取得には万全の体制を整えている。	適正に運営されている。
		12	教員・教員組織	70%	<p>常勤講師・非常勤講師を問わず、採用・育成・評価の各段階において、目的達成のための体制がほぼ出来上がっている。</p> <p>一部、不十分な点を残すが今後の課題としたい。</p>	適正に運営されている。
4	学修成果	13	就職率	80%	<p>就職希望学生への就職指導においては、教員及び就職部スタッフが個別面談を進め、学生個人の資質、適性及び能力と属性を十分に考慮した指導を實踐して、入社後を見据えた業界・職種への就職が実現できている。</p> <p>それらの達成状況（就職率）は学園本部で管理されている。</p>	適正に運営されている。
		14	資格・免許の取得率	80%	<p>求められる技術、人材を常に把握できるよう、業界関係者とのネットワークを日々広げている。多くの人材を業界に輩出するためにカリキュラムや指導方法の研究も行っている。今後も引き続き、就職活動に有利になる技術を研究する必要がある。</p>	適正に運営されている。
		15	卒業生の社会的評価	70%	<p>毎年卒業生の入社後状況調査を実施することで、教育カリキュラムの見直しに役立っている。</p>	適正に運営されている。

【自己評価】0%（取り組めていない）～ 100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価

平成31年度 学校関係者評価報告書		中項目		自己 評価	総括	学校関係者の評価・提言
No.	項目	No.	項目			
5	学生支援	16	就職等進路	70%	就職は教育の大きな目的であり、そのための整備はある程度進んでいる。  カリキュラムの一環として就職に関する準備が一通り行われている。それに伴い早期の内定獲得を実現している。  今後は、内定率100%を目指すとともに、卒業後までを意識した内定後教育の充実が大きな課題となる。	漫画家は作品持ち込み時に、自分の興味のあることを編集者に的確に伝える力が必要になるので、その力を鍛える必要がある。（漫画系）
		17	中途退学への対応	60%	退学率の低減は入学者の確保と同様、事業計画における最重要課題の1つとして取り組んでいる。学生が退学を希望するきっかけとなる時期・理由は多様化しており、今後は学生指導勉強会の定期的な実施等、担当者の更なる能力向上に向けた取り組みが必要である。	適正に運営されている。
		18	学生相談	60%	学生相談については、学生のシグナルを担当が見逃さずにキャッチし、その都度対応している。また、節目ごとに全員と個別面接を行い、今後の進路、目標確認、悩みなどを聞きだし対応している。その結果を指導記録にまとめ、上司に報告も行うなどの細やかな指導を実践している。	日常的に気軽に学生の相談に乗ることで更に信頼関係も築けるのではないかと。（声優系）
		19	学生生活	70%	より多くの学生が就学できるように、経済面、環境面などについて支援体制を整備している。  今後もニーズに合わせて、必要な支援体制を整備していく。	適正に運営されている。
		20	保護者との連携	70%	保護者への連絡については定期的に行っている。特に、規定の家庭宛注意書が発送される前については確実に保護者への連絡を義務付けている。必要に応じて保護者に来校していただき、面接も行っている。しかし、業務時間内に連絡を取る事が難しかったり、理解を得られない保護者も年々増えているのが現状であり、担任の負担が増している。	適正に運営されている。
		21	卒業生・社会人	70%	卒業生への支援体制としては、担当教員を窓口に関わり合いに応じて対応している。担当教員と上司や他の教員、関連部署間の連携により、可能な限りのフォローアップを行い、卒業生の満足も得られている。更なる満足度の向上を図るために卒業生サイトを運用し支援体制を整えている。  大学卒業生や社会人などのニーズにこたえる制度の開発をさらに進めていく。	一部の活躍している卒業生しか連絡してこないのではないかと。誰でも気兼ねなく相談に来られる体制が必要だ。（声優系）  卒業生の進路相談にも注力しており、業界内で活躍するようになった卒業生が進んで後進の指導に当たるような環境が整備されている。（アニメ系）
6	教育環境	22	施設・設備等	80%	施設・設備に関しては、ほぼ十分な対応ができていると思われる。今後もこの体制を崩さないように教職員の意識を高めながら維持していきたい。	声優・アニメ・漫画・イラスト系の仕事は東京に集中しているので、立地はとて有利であり、その事実をもっとアピールしても良いのでは。（全系統）
		23	学外実習、インターンシップ等	70%	実習等や研修の参加にあたっては、事前にガイダンスや説明会等を設け参加する目的等をしっかりと伝えていく。また、実習・インターンシップ参加前はトラブルにならないよう校内において受入先を想定し、実習前トレーニングを行うとともに目的確認を行っている。  研修については説明会を多く設定し事故やトラブルを防ぐように努めている。	学校関係者の広いネットワークによって様々な現場へのインターンシップが実現している。（全系統）
		24	防災・安全管理	60%	保険等の加入については十分なものになっているが、それ以前の物的および人的な備えに関して、これから対応を施していかなければならない。	適正に運営されている。
7	学生の募集と受入れ	25	学生募集活動は、適正に行われているか	80%	将来を意識した学生および保護者に対して、的確な情報を伝え、進路選択について過ちを起こさないようにさせたいと考える。また、高校側に対しても志願者について現状の認識と将来への展望を伝え、進路選択に役立ててもらいたいと考える。	適正に運営されている。
		26	入学選考	80%	学生一人ひとりに対して、書類選考を行っている。また、必要に応じて面接等を実施し、入学後進路変更がないように事前確認を十分行っているこの体制を維持していく。  入学選考時に把握した情報は担任レベルまで落とし込んでいく体制作りを行う必要がある。	適正に運営されている。
		27	学納金	適正に行っている	教育費に関しては、多くの家庭で優先順位が高い項目になっている。したがって、学費に関しては教育材料費等と常に確認をしながら負担にならない金額を設定するように心がけていく。また、学費納入に対しても滞ることがないように状況を確認していく。	適正に運営されている。

【自己評価】0%（取り組めていない）～ 100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価

平成31年度 学校関係者評価報告書		中項目		自己 評価	総括	学校関係者の評価・提言
No.	項目	No.	項目			
8	財務	28	財務基盤	安定している	定員充足率は一部のコースで減少傾向にあるものの学校全体としては高い水準であり、財務基盤は安定している。具体的には、キャッシュフロー、消費収支差額比率などの数値も良好な値を示している。	適正に運営されている。
		29	予算・収支計画	策定している	当年度の重点計画、前年度実績予想との整合性を保ち、健全な予算編成をしている。また、執行については定期的に運営会議などで執行状況を確認している。	適正に運営されている。
		30	監査	実施している	学校法人監事による業務監査とともに内部および外部の会計監査を受け、法令または寄付行為への遵守と学園の財務の適正性を、確保するようにしている。	適正に運営されている。
		31	財務情報の公開	70%	学園全体の財務情報は、大原学園ホームページで公開されているが、刊行物あるいは学内掲示での公開に関する規程がないため、規程の準備を今後進めていく。	適正に運営されている。
9	法令等の遵守	32	関係法令、設置基準等の遵守	90%	学園本部が中心となり、法令に対して速やかに対応できる体制を採っており、遵守に必要なものも文書化している。今後は教職員および学生に対して、定期的・継続的に実施できるよう検討を進める。	適正に運営されている。
		33	個人情報保護	80%	個人情報保護については情報セキュリティ委員会の下に、各部門・各校に管理者を配して、保護活動を徹底している。また、全国会議で説明会を催すなど、周知徹底を図るとともに対策の実効性を高めている。	適正に運営されている。
		34	学校評価	行っている	自己点検・評価報告書は申請があれば全項目を閲覧できる体制になっており、大原学園ホームページにも掲載している。 外部者による学校関係者評価を行い、報告書は大原学園ホームページに掲載している。 今後も継続的に評価を行い、課題を明確にして学校運営に活かしていく必要がある。	適正に運営されている。
		35	教育情報の公開	50%	学校の概要や教育内容は大原学園ホームページ等に掲載しているが、教職員に関する情報はその対象となっていないので、情報公開の内容と方法について今後改善を進めていく。	適正に運営されている。
10	社会貢献・地域貢献	36	社会貢献・地域貢献	50%	従来より、附帯教育事業は積極的に行っており、今後も幅広い年齢層で様々な分野の教育サービスを提供していく。 地域への貢献は施設の提供だけでなく学校の特色を活かしたのもも提供したいと考えている。	適正に運営されている。
		37	ボランティア活動	50%	ボランティア活動は学生の希望者のみ学校所在地自治体や病院等のボランティアに参加している。	適正に運営されている。

## 6. 学校関係者委員会総括

東京アニメーター学院専門学校の学習環境、学校運営等の取り組みについて自己点検評価を基に検証を行った結果、適正に運営されていると評価できるといえる。「一人ひとりに光を」という目標に向かって教職員全員が一丸となり学校運営、教育活動に取り組んでいることが分かる。ただ今後は、上述提言の通り、現状に満足することなく、常に社会で求められている人材育成を意識して取り組み、先々を考えより良い教育環境、学校運営ができるようにPDCAを繰り返しブラッシュアップを図ってほしい。また、新しい学校だからこそ、新しい取り組みをして声優、アニメ、漫画、イラストの分野で革新的な学校になって欲しいと考える。そのため、学校関係者評価委員一同で、客観的な視点から様々な提言をして、検証することで、社会からの信頼を益々得られるようにサポートして行きたいと考えている。